

小・中 合同

令和5年度

教育研究員研究報告書

外国語活動・外国語

東京都教育委員会

## 目 次

|      |           |    |
|------|-----------|----|
| I    | 研究主題設定の理由 | 1  |
| II   | 研究の視点     | 2  |
| III  | 研究の仮説     | 2  |
| IV   | 研究の方法     | 2  |
| V    | 研究構想図     | 3  |
| VI   | 研究の内容     | 4  |
| VII  | 検証授業      | 7  |
| VIII | 研究の成果と課題  | 13 |



## 研究主題

# 主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる 児童・生徒の育成

～小・中連携の視点を生かした言語活動の充実に向けて～

## I 研究主題設定の理由

グローバル化の進展に伴い多くの外国の人々と交流する機会が増え、自らすすんでコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成していくことが求められている。

小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月）（以下、「小学校解説」と表記。）及び「中学校学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）」（以下、「中学校解説」と表記。）では、外国語科の目標として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して」、小学校では「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を、中学校では「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することを目指している。そして、外国語教育における学習過程を「①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。といった流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりするもの」と示している。

一方で、教育研究員の所属校での外国語活動・外国語の授業における児童・生徒の実態について協議する中で、以下のような問題点が挙げられた。

- コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解してコミュニケーションを図っていない。
- コミュニケーションの見通しをもって言語活動に取り組むことができていない。
- 自分の考えや気持ちを適切に伝え合うことができていない。
- 取組状況に関する振り返りが十分ではない。
- 小学校での学びが、中学校におけるコミュニケーション場面で生かせていない。

そこで本研究では、以上の各学校の現状、児童・生徒の実態等を踏まえながら、教師がコミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえた単元の目標や単元終末のコミュニケーション活動を設定し、児童・生徒が自ら目的に応じて発信するまでの方向性、「コミュニケーションの見通し」をもって自分の考えや気持ちを適切に伝え合う取組を行うとともに、振り返りを通じて自分自身の成長や課題に向き合うこと、また、小学校での学びを中学校でのコミュニケーションに生かすことができるようになることを目指すこととした。そして、研究主題を「主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒の育成～小・中連携の視点を生かした言語活動の充実に向けて～」とした。

## II 研究の視点

研究主題を実現するため、二つの研究の柱を設定した。

【研究の柱①】 主体的に言語活動に取り組むための指導の工夫

- 児童・生徒が見通しをもって言語活動に取り組めるよう、教師がコミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした単元の目標や単元終末のコミュニケーション活動を示すとともに、児童・生徒自身がコミュニケーションの見通しをもった各授業のめあて（本研究では、これを「My Goal」と呼ぶ。）を設定できるようにする。
- 児童・生徒が自身の成長や課題に気付き向き合うための振り返りの場面を設定するとともに、教師が児童・生徒同士のやり取りを価値付け共有する中間指導の工夫を行う。

【研究の柱②】 小学校での学びを中学校での学びに生かす指導の工夫

- 小学校での指導においては、中学校で学習する内容を踏まえた指導を行う。
- 中学校において小学校で既習又は類似の場面設定の言語活動を行う際には、既習事項を踏まえた指導を行い、生徒が小学校時に学んだ語彙・表現等について再度触れることにより、生徒の経験や知識を生かすようにする。

## III 研究の仮説

児童・生徒が主体的に言語活動に取り組むための指導の工夫及び小学校での学びを中学校での学びに生かす指導の工夫を行うことで、主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒を育成することができるだろう。

## IV 研究の方法

「主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒」を育成するため、次のとおり研究を行った。

### 1 課題の整理と指導方法の検討

児童・生徒の現状と課題を明確にするとともに、小学校解説、中学校解説等の研究を通じて、課題を解決するための指導方法を検討し、研究主題を設定した。

### 2 授業実践

検討した指導方法は、「II 研究の視点」に基づき実践した。

### 3 検証授業及び授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

二つの「研究の柱」に基づいて、取組の効果を検証した。

これら二つの「研究の柱」に基づいた授業実践が「主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒」の育成につながるものとなっているか、という視点から仮説の検証を行った。各研究員が本研究において授業実践を行う中で明らかになった児童・生徒の活動状況の把握、児童・生徒が記入した My Goal の設定及び振り返りを行うことができるシート（本研究では、これを「振り返りシート」と呼ぶ。）の記載内容等から、研究の成果と課題をまとめた。

## V 研究構想図

### 外国語科の目標【小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月）及び中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）から】

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して」、小学校では「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」、中学校では「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成を目指している。

### 外国語教育における学習過程【小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月）及び中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）から】

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

### 【児童・生徒の実態】

#### 【教育研究員の所属校における児童・生徒の課題】

- コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解してコミュニケーションを図っていない。
- コミュニケーションの見通しをもって言語活動に取り組むことができていない。
- 自分の考えや気持ちを適切に伝え合うことができていない。
- 取組状況に関する振り返りが十分ではない。
- 小学校での学びが、中学校におけるコミュニケーション場面で生かせていない。

### 【共通研究テーマ】

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

### 【研究主題】主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒の育成 ～小・中連携の視点を生かした言語活動の充実に向けて～

#### 【研究仮説】

児童・生徒が主体的に言語活動に取り組むための指導の工夫及び小学校での学びを中学校での学びに生かす指導の工夫を行うことで、主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒を育成することができるだろう。

#### 【研究の柱①】主体的に言語活動に取り組むための指導の工夫

- 児童・生徒が見通しをもって言語活動に取り組めるよう、教師がコミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした単元の目標や単元終末のコミュニケーション活動を示すとともに、児童・生徒自身がコミュニケーションの見通しをもった各授業のめあて（本研究では、これを「My Goal」と呼ぶ。）を設定できるようにする。
- 児童・生徒が自身の成長や課題に気付き向き合うための振り返りの場面を設定するとともに、教師が児童・生徒同士のやり取りを価値付け共有する中間指導の工夫を行う。

### 【目指す児童・生徒像】

主体的に英語でコミュニケーションを図ることができる児童・生徒

#### 【研究の柱②】小学校での学びを中学校での学びに生かす指導の工夫

- 小学校での指導においては、中学校で学習する内容を踏まえた指導を行う。
- 中学校において小学校で既習又は類似の場面設定の言語活動を行う際には、既習事項を踏まえた指導を行い、生徒が小学校時に学んだ語彙・表現等について再度触れることにより、生徒の経験や知識を生かすようにする。

## VI 研究の内容

### 1 研究の柱① 主体的に言語活動に取り組むための指導の工夫

#### (1) 振り返りシートによる児童・生徒にコミュニケーションの見通しをもたせる工夫

単元のはじめに、児童・生徒と共に振り返りシートを活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえた単元の目標と単元終末のコミュニケーション活動、各時間の学習内容を児童・生徒と確認しながら、その一時間で何ができるようになっていけば良いのか、単元終末のコミュニケーション活動に向けてどのような表現を身に付けなければ良いのかを児童・生徒と共有した。振り返りシートは、児童・生徒が単元の全体像を把握し、見通しをもって学習に取り組めるよう、単元の全時間について示した中の各時間の目標（本研究では、これを「Today's Goal」と呼ぶ。）を記載しておくとともに、児童・生徒がコミュニケーションの見通しをもった各授業のめあてとして「My Goal」を記入できるようにした。

各時間、授業の冒頭には、Today's Goal から自分の到達度を確認し、前時の振り返りを生かして My Goal を立てられるようにした。各時間の終末には、Today's Goal、My Goal に正対した振り返りを行うことで、自分の成果と課題に向き合うようにした。さらに、「頑張ったこと、気付いたこと」や「次に頑張りたいこと」を書かせ、本時の課題から次時への My Goal をもたせることで、児童・生徒が自身の成長や課題に気付き向き合い、主体的に言語活動に取り組むことができるようにした。

#### (2) 中間指導の工夫

教育研究員共通研究テーマ「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を鑑み、児童・生徒自身が成長や課題に気付き向き合うために、相手と言語活動を見合い、互いのよさや工夫に気付いたり、表現に不安があった場合には相手と相談や助言をし合ったりする活動を取り入れるようにした。教師が児童・生徒同士のやり取りを価値付け共有するとともに、更にどのような工夫ができるか問い掛け、既習表現や非言語的な表現を工夫させるなどして、より相手に伝わる表現へと高められるようにした。

また、中間指導を効果的に行うために、上記(1)で示した振り返りシートを活用した。振り返りシートにおいては、児童・生徒の言語活動に取り組むための不安や課題などを、前述の「頑張ったこと、気付いたこと」や「次に頑張りたいこと」などの問いから把握した。そうすることで、次時に児童・生徒からどのような工夫が出てくるかを事前に教師が想定したり、机間指導の中で児童・生徒同士がどのような相談、助言をしているかなどの様子を踏まえたりしながら、どのペアやグループの取組を全体で共有するか判断するようになった。





## 2 研究の柱② 小学校での学びを中学校での学びに生かす

中学校において、小学校と共通した場面設定の活動を行う際には、小学校で学んだものを活用したオーラル・イントロダクション等の導入を行う。また、中学校でも扱うコミュニケーション場面を踏まえ小学校でも扱うことで、語彙や表現などの定着・活用を促すことができると考えた。教師が義務教育の9年間を見通して指導計画を立てることで、言語活動の充実を図ることができるようにした。

### (1) 既習の言語活動のテーマ・語彙・表現を生かす指導の工夫

中学校の教科書には新出の単語や表現に加え、小学校で慣れ親しんだ単語や表現が掲載されている。中学校において、小学校で学んだ単語等の既習表現と結び付けて学習が進められるようにしていく。

#### 【具体的な工夫①】

例えば、不定詞の導入において、小学校で学んだ“I want to”の表現をオーラル・イントロダクションで使うことで、文法事項に対するハードルを下げるとともに、小学校で慣れ親しんだ表現の裏にある文法事項や単語を中学校で学習することで、小学校での学びをより深化させる。

#### 【具体的な工夫②】

小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定を確認したところ、以下の【表1】のようになった。【表1】を活用し、例えば、小学校で学んだ「道案内」に関する表現を広げる形で中学校で学習をすることで、生徒が知識・経験を活用した学習を行えるようにする。小学校で学んだ表現を中学校でも活用するコミュニケーションの場面設定としては、以下の【表2】の内容などが考えられる。

【表1】 小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定

| 小学校         | 中学校        |
|-------------|------------|
| 道案内         | 道案内        |
| 誕生日         | 誕生日        |
| 思い出・休日にしたこと | 思い出・過去の出来事 |
| 体調          | 体調         |
| 食べ物の注文      | レストランでの注文  |
| 夢の紹介・職業     | 自己紹介       |
| 数・値段        | 買い物        |
| したいこと       | したいこと      |
| 憧れの人        | 他者紹介       |
| できること       | できること      |

[表2] 小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定で用いる英語表現

| 小学校           |  | 中学校       |  |
|---------------|--|-----------|--|
| 道案内           | Go straight.<br>Turn right at the first corner.<br>Where is the ~?                     | 道案内       | Go down this street.<br>Please tell me the way to ~?<br>How can I get to the ~?                                |
| 人物紹介          | He can play the piano.<br>I want to be a doctor.<br>I like playing the piano.          | 学校紹介      | This boy is going to gym.<br>She is studying music.<br>This is my favorite place.                              |
| 6年間の思い出を振り返ろう | I enjoyed drama festival.<br>I want to join baseball club.<br>My school life is great. | 1年間で振り返ろう | It was my first game against another school.<br>I wanted to show this to you.<br>I was playing soccer outside. |

※小学校については、*JUNIOR TOTAL ENGLISH*、*Blue Sky elementary*等、中学校については *NEW CROWN English Series* 等を基に作成

## Ⅶ 検証授業

### 1 検証授業① 小学校 第5学年

(1) 単元名 Lesson4 “Where is the beach ball?” *JUNIOR TOTAL ENGLISH*(学校図書)

(2) 単元の目標

新校舎周辺の自分のお気に入りの場所を伝えるために、友達や ALT に伝わるように工夫しながら、その場所がどこにあるか尋ねたり答えたりすることができる。

(3) 単元の評価規準

|            | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|------------|---|---|---|
| 話すこと「やり取り」 | <知識><br>物のある場所を尋ね合う表現、方向を指示する表現を理解している。<br><技能><br>物のある場所を尋ね合う技能、方向を指示する技能を身に付けている。 | 新校舎周辺の自分のお気に入りの場所を伝えるために、友達や ALT に伝わるように工夫しながら、その場所がどこにあるか尋ねたり答えたりしている。 | 新校舎周辺の自分のお気に入りの場所を伝えるために、友達や ALT に伝わるように工夫しながら、その場所がどこにあるか尋ねたり答えたりしようとしている。 |

(4) 本時の目標

ある場所までの道順を尋ねたり、案内したりすることができる。

(5) 単元の指導計画 (全8時間)

|         | 目標  |
|---------|---|
| 第1時     | ・単元の目標を理解する。 ・建物・施設の語彙を聞いて分かる。  |
| 第2時     | ものの位置を聞き取ったり、答えたりすることができる。  |
| 第3時     | 道案内の表現を使うことができる。  |
| 第4時     | 場所を尋ねたり、道順を答えたりすることができる。  |
| 第5時(本時) | ある場所までの道順を尋ねたり、案内したりすることができる。   |
| 第6時     | 自分の町のお気に入りの場所を考え、その名前を書き写すことができる。   |
| 第7時     | 自分の町のお気に入りの場所を知ってもらうために、相手に分かりやすく話す工夫を考えることができる。                            |
| 第8時     | 新校舎周辺の自分のお気に入りの場所を伝えるために、友達や ALT に伝わるように工夫しながら、その場所がどこにあるか尋ねたり答えたりすることができる。 |

(6) 指導にあたって

ア My Goal の設定及び振り返りシート

児童が見通しをもって言語活動に取り組めるよう、教師がコミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした単元の目標や単元終末のコミュニケーション活動を示した。また、振り返りシートに Today's Goal を掲載 (P5 参照) することで、児童が単元の見通しをもち、学習に取り組めるようにした。毎時間、授業の冒頭に、Today's Goal から自分の到達度を把握し、前時の振り返りを生かして My Goal を立てさせた。児童が Today's Goal を踏まえて My Goal を適切に設定できるように、児童が立てた My Goal の内容を複数紹介して全体で共有し、児童が視点を広げたり課題に気付いたりできるようにした。授業の終末には My Goal に正対した振り返りを行い、児童自身の成長や課題に気付かせ向き合うようにさせ、本時の課題から次時への My Goal をもたせた。

イ 中間指導

活動を前半と後半に分けて相手を変えてやり取りさせた。中間指導の場面では、教師が児童に工夫した点や友達のよい姿を尋ねたり、児童同士で互いのよさに気付かせたりして、相手に伝わるようにするためにはどのような表現や伝え方の工夫があるのか、全体共有を行った。次に、教師が見取った児童の粘り強くやり取りしようとする姿を伝え、価値付けた。児童自身の成長や課題に気付かせるとともに、さらにどのような工夫ができるか問い掛けることで、What~do you like? That's good!などの既習表現やジェスチャーやアイコンタクトなどのコミュニケーションスキルを使った非言語的な工夫も含めて、相手に応じた話し方の工夫を考えさせた。

(7) 本時の展開

| 時間        | ○ 学習内容 ・ 活動内容   | 指導上の留意点・配慮事項  | 評価規準 |
|-----------|---|---|------|
| 導入<br>5分  | ○ 挨拶<br>○ Let's Chant   | ・外国語学習の雰囲気づくりを行う。<br>・道案内に必要な表現を確認させる。  |      |
| 展開<br>35分 | ○ Small Talk (教師対児童)<br>T: What is your favorite place?<br>What's this?<br>C: Chiyoda Library!<br>T: That's right! I like libraries.<br>My favorite place is Chiyoda Library.<br>C: I know!<br>T: Oh, Chiyoda Library.<br>How about you?<br>ALT: No... Where is Chiyoda Library? Please tell me...<br>C: OK. <u>Go straight for 2 blocks.</u><br>○ Small Talk (児童同士)<br>A: What is your favorite place?<br>B: My favorite place is ~.<br>A: That's good. Why do you like ~? | ・教師のお気に入りの場所とその理由を伝える。ALT を担任のお気に入りの場所まで案内する。<br><br>【柱2】小・中連携<br>小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定及び表現を意識する。 |      |

|                   |  |   |                                       |
|-------------------|--|---|---------------------------------------|
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>英語で言いたかったことを全体で共有する。</li> <li>○ Today's Goal の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>ある場所までの道順を尋ねたり、案内したりしよう。</li> </ul> </li> <li>○ 前時の振り返りから My Goal を立てる。</li> <li>○ Ochanomizu Map Quiz 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>担任と ALT でデモンストレーションを行う。</li> <li>一人1台端末の地図上に案内したい場所を一か所決める。相手に自分のお気に入りの場所を推測させ、その場所がどこにあるか道案内する。</li> </ul> </li> <li>○ Level Up Time (中間指導) <ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わるように工夫した点を共有する。自分の考えを広げたり改善したりして伝えたい内容を再度検討する。</li> </ul> </li> <li>○ Ochanomizu Map Quiz 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を変えて、何度もやり取りを行う。</li> </ul> </li> </ul> | <p>【柱1】 My Goal<br/>前時の振り返りと Today's Goal を踏まえて My Goal を考えさせる。</p> <p>【柱1】 中間指導<br/>ペアや全体で、よい点や課題等を共有することで、より相手に伝わる表現へと高められるよう改善を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Today's Goal に対してどのように工夫していたか問い掛ける。相手に伝わるように工夫している姿や友達からの助言を生かし改善しようとしている姿を取り上げる。</li> </ul> | <p>やり取り<br/>行動観察<br/>振り返り<br/>カード</p> |
| <p>まとめ<br/>5分</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返り</li> <li>○ 挨拶</li> </ul>   | <p>【柱1】 振り返り<br/>Today's Goal と My Goal に沿って、活動を振り返らせる。</p>   |                                       |

(8) 検証授業①における成果と課題

ア 検証授業①における成果

My Goal を立てることで、児童が自分の課題を意識して今日取り組むべきことをすすんで考える習慣が身に付いた。また、教師が他の児童の振り返りを中間指導で紹介することで、児童の課題設定の幅が広がった。教師の中間指導や児童間でよい点などを共有することにより、互いのよさを取り入れ、よりよく相手に伝わるようにすすんでコミュニケーションを図る姿が見られた。

イ 検証授業①における課題

My Goal を考えられない児童が見られた。今後、My Goal を立てる際、Today's Goal に対してどのようなことを達成できたらいいのか、児童が考えられるようにするための手だてとして前時で自分の達成度や課題を把握させ、次の目標をもたせておくことや授業中児童の観察を十分に行い、観察を踏まえ中間指導において Today's Goal や My Goal をどこまで達成できているのか確認させ、児童のよい姿や困り感を共有することで、児童が自分のコミュニケーションの図り方を再構築し、課題達成への自己調整の時間を作るなどして

いく必要がある。

中学校で学習する内容を踏まえた指導については中学校でも共通のコミュニケーション場面（場所や人の紹介）を扱うことを踏まえ、道案内などの表現が十分に活用できるよう定着を図ったが、振り返りシートの記述から、一部の児童には負担が大きい様子が見られた。児童が無理なく学べるように、工夫していくことが必要である。

## 2 検証授業② 中学校第1学年

### (1) 単元名

Lesson5 “School Life in the U.S.A.” *NEW CROWN English Series 1* (三省堂)

### (2) 単元の目標

小学校6年生に、中学校生活について興味をもってもらうために、部活動や委員会活動などの生活場面に関して伝えたい内容を簡単なメモにまとめ、紹介する場面の動画や写真を見せながら、まとまりのある内容を話すことができる。

### (3) 単元の評価規準

|          | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------|--|--|---|
| 話すこと「発表」 | 〈知識〉<br>現在進行形の肯定文や疑問文の特徴やきまりを理解している。<br>〈技能〉<br>中学校生活について、現在進行形の肯定文や疑問文などを用いて話す技能を身に付けている。 | 小学校6年生に、中学校生活について興味をもってもらうために、部活動や委員会活動などの生活場面に関して伝えたい内容を簡単なメモにまとめ、紹介する場面の写真やイラストを見せながら、まとまりのある内容を話している。 | 小学校6年生に、中学校生活について興味をもってもらうために、部活動や委員会活動などの生活場面に関して伝えたい内容を簡単なメモにまとめ、紹介する場面の写真やイラストを見せながら、まとまりのある内容を話そうとしている。 |

### (4) 本時の目標

小学校6年生に、中学校生活について興味をもってもらうために、アメリカや日本の中学校生活についてメモをもとに話すことができる。

### (5) 単元の指導計画（全9時間）

|         | 目標   |
|---------|--|
| 第1時     | 単元の目標を理解する。<br>アメリカの中学校生活について理解することができる。     |
| 第2時(本時) | アメリカや日本の中学校生活についてメモをもとに話すことができる。             |
| 第3時     | 日本の中学校の昼食や休み時間などに関してメモをもとに話すことができる。          |
| 第4時     | アメリカや日本の中学校生活についてメモをもとに相手に質問したり答えたりすることができる。 |
| 第5時     | アメリカや日本の中学校の部活動や行事についてメモをもとに説明することができる。      |
| 第6時     | 中学校の部活動や行事についてメモをもとに話すことができる。                |
| 第7時     | 小学校6年生に、中学校生活について伝えることをグループで考え、話すことができる。     |
| 第8時     | 第7時で撮影した動画について、内容や表現方法を改善する。                 |
| 第9時     | 小学校6年生対象に、中学校生活について、まとまりのある内容を話すことができる。      |

### (6) 指導にあたって

ア 中学校では、単元の目標と単元終末のコミュニケーション活動を意識させ、コミュニケー

シヨンの見通しをもたせるため、1単元で1枚の振り返りシートを作成した。やり取りの中で使えると思った表現を、振り返りシートに記入させていき、それを基に単元終末のコミュニケーション活動が行えるようにした。

イ 本単元ではアメリカでの中学校生活について学び、日本の中学校生活について伝えることを目指した。その際、小学校では6年生で中学校生活について扱ったり動詞のing形を扱ったりしていることを踏まえ、生徒が抵抗感が少ない状態で学習に取り組めるよう、小学校での学習内容や既習表現を確認した。

《第1回検証授業からの改善点》

生徒が自身で考え、My Goalを立てるために適宜、単元の目標を授業の中で確認した。生徒の活動で出てくる良いやり取りや間違いを事前に想定した。活動中は事前にモニタリングするペアを決め、全体への中間指導につなげた。

(7) 本時の展開

| 時間        | ○ 学習内容 ・ 活動内容  | 指導上の留意点・配慮事項   | 評価規準  |
|-----------|--|--|---|
| 導入<br>10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶</li> <li>○ 授業の流れの確認</li> <li>○ Q&amp;A</li> <li>・ Today's Goal のイメージを共有する。アメリカと日本の中学校生活に関するイラストを提示し、ペアで互いに写真について説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【柱2】小・中連携</b><br/>小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定及び表現を意識する。</p> </div>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて見る写真で、「写真の状況を説明する」体験をさせる。本時の最後の言語活動に対するイメージをもたせる。また、「こんな表現を使いたい」という目標をもたせる。</li> </ul>  | <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは行わない。活動させているだけに十分な留意する。</p> |
| 展開<br>35分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Today's Goal の確認</li> <li>○ My Goalを立て、書き込む。</li> <li>○ Practice</li> <li>・ Drillの絵を見て、何をしているか答える。</li> <li>○ Listen</li> <li>・ 選択肢の人物がしていることを言う。</li> <li>○ Talk</li> <li>・ アメリカの中学校生活に関する写真を2枚見て、どのような表現が使用できるか考える。考えた単語についてメモをとる。</li> <li>・ 活動(1回目)<br/>生徒個人が日本の中学校生活に関する1枚の写真やイラストについて説明する。(1人2分)</li> </ul> | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【柱1】My Goal</b><br/>前時の振り返りとToday's Goalを踏まえてMy Goalを考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認した表現を、生徒が同じようにメモできるように、簡潔に黒板に書く。</li> <li>・単元終末のコミュニケーション活動と似た活動をさせ、スモール・ステップにする。</li> <li>・振り返りシートに書いたメモを利用する。</li> <li>・生徒をモニタリングし、良い表現や間違いがないか確かめる。</li> </ul> |   |

|                   |  |  |  |
|-------------------|--|--|--|
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>フィードバック<br/>生徒同士で、相手の説明について良かった点を確認したり、アドバイスを伝え合う。(2分)</li> <li>活動(2回目)(1人2分)<br/>生徒個人が日本の中学校生活に関する1枚の写真やイラストについて説明する。(1人2分)</li> </ul> | <p>共通の文法エラーを共有する。</p> <p>【柱1】中間指導<br/>ペアや全体で、よい点や課題等を共有することで、より相手に伝わる表現へと高められるよう改善を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回目にできなかったことや学んだ表現を、2回目で使えるようにする。</li> </ul> |  |
| <p>まとめ<br/>5分</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返り</li> <li>・ 本時の振り返りを書く。</li> <li>○ 挨拶</li> </ul>  | <p>【柱1】振り返り<br/>Today's Goal と My Goal に沿って、活動を振り返らせる。</p>   |  |

(8) 検証授業②における成果と課題

ア 検証授業②における成果

事前に、単元の目標と第1時から第9時まですべての Today's Goal を記入した振り返りシートを配布し、単元を通して使用したことで、生徒は前時の成長や課題に気付き向き合いながら My Goal を立てることができた。My Goal を立てたことで生徒は自身のできたことやできなかったことを客観的に捉えることができた。

生徒がコミュニケーションの見通しをもった My Goal を設定することができたことで、生徒は主体的に言語活動に取り組むことが可能となった。

また、単元の生徒アンケートの結果から授業内の英語による活動ができていないと感じている生徒のペアを抽出し、モニタリングを行い、よいところを取り上げるなど生徒自身が成長や課題に気付き向き合える中間指導につなげた。

イ 検証授業②における課題

単元の最初に目標を提示する際、教師自身が単元の単元終末のコミュニケーション活動を常に意識しながら、生徒の実態に合わせて中間指導を含めた授業展開をしていくことが必要であった。Today's Goal に沿った My Goal を立てることができるよう、前時の振り返りと Today's Goal を踏まえて設定するよう授業の中で提示したが、教師の意図している My Goal を立てることが難しい生徒がいた。また今回の単元では、生徒の文法エラー(現在進行形の間違い)を想定して授業に臨んだが、想定したエラーが見られなかった。中間指導を臨機応変に変更し、趣旨に沿った題材を選んだ生徒の発表、例えば体育の授業の様子が分かる動画を準備して発表した例等を紹介する必要がある。中間指導を効果的なものとするためには、生徒にねらいとする文法や表現の使用を促すような授業展開となるよう発問の仕方や課題の提示をすることが必要だった。

ウ 検証授業で扱った振り返りシートの具体例（一部抜粋）

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 振り返りシート 【Lesson 5 School Life in the U. S. A.】 |                         |
| 中学校生活を小学生6年生に中学校生活に興味をもってもらうために、動画を使い発表しよう     |                         |
| ～文化や習慣の違いを意識して、伝え方を工夫しよう～                      |                         |
| Unit 5 Part 1 ①                                |                         |
| Today's Goal                                   | 今日の授業から、使えるようなアイデア&英語表現 |
| アメリカの中学校生活について理解しよう。                           |                         |
| My Goal  |                         |
| Goalに対して、頑張ったこと、気付いたこと、友達の良かったところ              |                         |
| 次に頑張りたいこと                                      |                         |
| 進んでコミュニケーションに取り組むことができましたか。                    |                         |
| Excellent                                      | Great Good Almost       |
| 会話などを工夫したり、友達や先生からのアドバイスを活かしたりして話すことができましたか。   |                         |
| Excellent                                      | Great Good Almost       |
| Unit 5 Part 1 ②                                |                         |
| Today's Goal                                   | 今日の授業から、使えるようなアイデア&英語表現 |
| アメリカや日本の中学校生活について、メモをもとに話そう。                   |                         |
| My Goal  |                         |
| Goalに対して、頑張ったこと、気付いたこと、友達の良かったところ              |                         |
| 次に頑張りたいこと                                      |                         |
| 進んでコミュニケーションに取り組むことができましたか。                    |                         |
| Excellent                                      | Great Good Almost       |
| 会話などを工夫したり、友達や先生からのアドバイスを活かしたりして話すことができましたか。   |                         |
| Excellent                                      | Great Good Almost       |

## VIII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本研究では、二つの「研究の柱」に基づいた指導実践について、取組の効果を検証した。以下、それぞれの「研究の柱」について、成果を述べる。

#### (1) 【研究の柱①】について

〈振り返りシートの活用による児童・生徒の主体的な言語活動への取組の促進〉

各研究員が本研究において授業実践を行う中で、振り返りシートを活用した。単元のはじめに、児童・生徒と共に振り返りシートを活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえた単元の目標と単元終末のコミュニケーション活動、各時間の学習内容を児童・生徒と確認しながら、その一時間で何ができるようになれば良いのか、単元終末のコミュニケーション活動に向けてどのような表現を身に付ければ良いのかを児童・生徒と共有した。また、Today's Goal を全時間分掲載することで、児童・生徒は、単元終末のコミュニケーション活動とその時間に学ぶべきことを確認することができた。My Goal を立てることで、見通しをもって、主体的に言語活動に取り組むことができた。

振り返りシートを用いることで、児童・生徒が見通しをもって活動に取り組んでいるか、そして、自分の成果と課題に気付き向き合い、次時以降も主体的に言語活動に取り組んでいるか、「振り返りシート」における児童・生徒の振り返りのコメントを基に効果を検証した。



検証前と検証後における児童・生徒のコメント例については、次の【表3】、【表4】のとおりである。

【表3】「振り返りシート」における児童の Today's Goal と関連した振り返りコメント例

|     | Today's Goal                  | 「頑張ったこと、気付いたこと」のコメント例   | 「次に頑張りたいこと」のコメント例  |
|-----|-------------------------------|---|--|
| 検証前 |                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を読むことを頑張った。</li> <li>・発音が難しかった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スラスラ言えるようになりたい。</li> <li>・ノートを見ないで言う。</li> <li>・ちゃんと返事したい。</li> <li>・感想を伝えたい。</li> </ul>       |
| 検証後 | ある場所までの道順を尋ねたり、案内したりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように right、left をはっきりと言って会話できた。</li> <li>・(友達によかったところとして) スタート地点を最初に言っていて、どこから始めればよいのか分かりやすかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からお気に入りの場所を紹介された中でも、「何が好き？」などとさらに質問できるようにしたい。</li> <li>・英語で会話を広げ、今日の〇〇さんのように話したい。</li> </ul> |

【表4】検証後の「振り返りシート」における My Goal を踏まえた振り返りコメント例

|    | My Goal                      | 「頑張ったこと、気付いたこと」のコメント例                                | 「次に頑張りたいこと」のコメント例                     |
|----|------------------------------|--|---------------------------------------|
| 児童 | 英語を積極的に使い、会話をうまく広げながら道案内したい。 | ・〇〇さんとのやり取りで会話がとてもはずんだのでよかった。                        | ・次は自分から質問したり、My favorite～をもっと使ったりしたい。 |
| 生徒 | 疑問文、応答文のつくりを理解して、話せるようになる。   | ・習った単語を生かして文を作ることができた。疑問文、応答文を使って文を作ることができたので良かったです。 | ・スラスラ読めるようになる。                        |

検証後の振り返りシートには、本研究における取組を継続した結果、具体的な振り返りが見られるようになった。また、Today's Goal を受けて自身の成長や課題を踏まえた My Goal を検討することが可能となり、児童・生徒の実態に応じて、各自が発展的、基礎的な My Goal を設定した。例えば、「英語を積極的に使い、会話をうまく広げながら道案内したい。」という My Goal を設定した児童が、「〇〇さんとのやり取りで会話がとてもはずんだのでよかった。」という振り返りを行っている。次回に向けては「次は自分から質問したり、My favorite～をもっと使ったりしたい。」とより相手に伝わる表現に高めようとする姿が見られ My Goal のねらいに適した内容になった。児童・生徒が見通しをもって活動に取組み、次回以降も主体的に言語活動に取組もうとする姿勢が伺えた。

〈効果的な中間指導の実施による児童・生徒の主体的な言語活動への取組促進〉

各研究員が本研究において授業実践を行う中で、中間指導を取り入れた。中間指導では、相手に伝わるようにするためにはどのような表現や伝え方の工夫があるのかについて、全体共有を行った。児童・生徒同士のやり取りの場（協働的な場）を設けることで、互いのよさや改善点に気付き、表現の幅が広がるとともに、主体的に言語活動に取り組もうとする児童・生徒の姿勢が見られた。

例えば小学校の実践では中間指導の時間を設定することで、児童はペア活動では表現方法が分からず表現できなかったことでも、表現方法が分かり、2回目の活動に生かすことができた。また、友達の良いところを学級で共有するという一方で、互いのよさや工夫に気付くことができた。こうしたことは、教育研究員共通研究テーマである「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」につながったと考えている。

## (2) 【研究の柱②】について

〈小学校での学びを中学校への学びに生かすこと〉

中学校では、小学校での既習単語や文法を繰り返し意識的に活用することで、英語表現の発展につながり、生徒がより主体的に言語活動に取り組むことができた。

検証授業以外の授業でも、**want to**（不定詞）の授業において、**I want to go to Italy.**という小学校で学んだフレーズを入れたところ、「小学校の時に習った」と英語が苦手な生徒から声があがるクラスが多かった。

中学校において小学校での既習又は類似の場面設定の言語活動を行う際には、既習事項を踏まえた指導を行い、生徒が小学校時に学んだ語彙・表現等について再度触れることにより、経験や知識を生かすようにすることで、生徒は主体的に英語でコミュニケーションを図ることができていた。

## 2 研究の課題

9月、11月にて教育研究員が所属する小学校の第5学年から第6学年の児童80名程度及び教育研究員が所属する中学校の第1学年から第3学年の生徒580名程度を対象に、研究実践の事前と事後でアンケートを実施した。

「授業では、自分の考えや気持ちを外国語で表現できていますか」という質問に対する回答を比較した。「とても表現できている」「どちらかといえば表現できている」と回答した児童・生徒は9月には76.1%、11月には80.5%という結果となり、研究実践の事前と事後で大きな向上が見られなかった。

それぞれの検証の視点において課題となった点について述べる。

### (1) 【研究の柱①】について

〈Today's Goal に沿った My Goal の設定〉

Today's Goal に沿った My Goal を立てることができるよう、前時の振り返りと本時のめあてを踏まえて設定するよう授業の中で提示したが、教師の意図したように My Goal を立てることが難しい児童・生徒がいた。

検証授業1で実施したように、振り返りシート記載内容について他の児童・生徒のよい例を紹介したり、単元のはじめに単元の目標を共有、毎時間で Today's Goal を確認する

など、繰り返し実施することで、児童・生徒一人一人が適切な My Goal を立てられるよう支援していくことで改善が図られると考える。

〈中間指導の際の共有内容〉

中間指導の際、児童・生徒のよい例の共有が不十分であった。全体で共有するためには活動中に、視点を決めて確認する必要がある。

また、中間指導において、My Goal の達成度及び課題の確認又は共通理解を図ることで、児童・生徒自身の学びや変容を自覚できる場面とその時間を確保する工夫が必要である。加えて、児童・生徒同士の間指導の際、表現や語彙のエラーがある状態のまま相談や助言をし合う場面があったり、どのような活動をすべきなのか理解していない児童・生徒が見受けられる場面があった。教師は児童・生徒同士の間指導を行う前に、言語活動中に児童・生徒が発した表現や語彙等のエラーを拾い、学級全体または個別指導で修正を行う場面が必要である。また、児童・生徒が適切に相談や助言を行う活動ができるように、中間指導の内容を明確に表すことが重要である。

(2) 【研究の柱②】について

〈小・中連携の視点をより生かす方法〉

小学校で中学校の内容を扱うことについては児童の負担となる場面が見られた。しかし、中学校においては小学校と中学校で共通して扱っているコミュニケーションの場面設定を生かし、様々な場面で繰り返し小学校で学んだ内容を活用することで、生徒はより表現に慣れることができる様子が見られた。小学校と中学校が連携して英語表現の幅を広げる活動に取り組むことで、言語活動を充実していきたい。

## 令和5年度 教育研究員名簿

### 小・中 合同・外国語活動・外国語

| 学 校 名         | 職 名  | 氏 名      |
|---------------|------|----------|
| 千代田区立お茶の水小学校  | 主任教諭 | 渋谷 さやか   |
| 墨田区立第二寺島小学校   | 主任教諭 | ◎谷 口 弘 樹 |
| 中央区立晴海中学校     | 主任教諭 | 宇 内 祐 子  |
| 町田市立鶴川第二中学校   | 主任教諭 | 渡 邊 良 亮  |
| 西東京市立ひばりが丘中学校 | 主任教諭 | 佐 藤 善 明  |
| 新島村立新島中学校     | 主任教諭 | ◎佐 藤 潤 哉 |

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課

指導主事 山田 陽子

令和5年度  
教育研究員研究報告書  
小・中 合同・外国語活動・外国語

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849